

「平成 29 年度 主任保育士研修会」報告書

【期 日】 平成 29 年 9 月 22 日（金）

【会 場】 マリトピア

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者】 175 名

【内 容】

・研修 1 9:30～11:30

『保育所保育指針の改訂に伴う保育の質の向上、主任保育士の役割』

講師 大豆生田 啓友 氏（玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 教授）

・研修 2 13:00～13:30

「基調報告」講師 指山 健次郎 氏（佐賀県保育会会長）

・研修 3 13:30～15:30

講師 北野 久美 氏（全国保育士会副会長 あげぼの愛育保育園 園長）



研修 1『保育所保育指針の改訂に伴う保育の質の向上、主任保育士の役割』

講師 大豆生田 啓友 氏（玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 教授）



・保育の質とは。乳幼児期の保育にお金をかけるアメリカは、50 年以上前から貧困に悩んでいたため、3 歳からの質の高い集団保育の経験（子ども主体の遊びによる学習、丁寧な家庭支援）がその後に与えた影響を調べた。すぐに結果はでなかったが、20 歳に近づくにつれ差がでてきた。質の高い集団保育の経験をした方が、高校卒業率、収入持ち家率が高く、離婚率、犯罪率、生活保護受給率が低いという結果が出た。

・非認知能力

意欲 : 夢中になって遊ぶ子を育てる。遊びが学び、遊びこむところの保育ができるかで、保育の質があきらかに出る。安心・安全だけではなく豊かな学びができるか。

自尊心 : 自己肯定感（日本での自己肯定感は圧倒的に低い）

① 子どものことに肯定的にかかわられているか

② 成功体験（夢中になって遊びこんでいるか）

粘り強さ : 夢中になって遊びこんでいる子どもは、上手いかわなくても乗り越えていける。させられることが多かった子はそれが育たない。

人とかかわる力：けんかをすることで相手の気持ちが分かっていく。

遊びこめてないからかみつiky、ひっかきがおこる。保育室を見れば、質がわかる。環境を提供しているかどうか、1年間同じものばかりではなく、時々入れ替えも必要。

- ・ 保育園、幼稚園、こども園は、教育のスタートである。
子どもが体験しながら、主体的に学ぶ。遊びこむことが大切である。
非認知能力を高められる保育にしているか。させることより、子ども主体に変えていこう。怒るところが多いところは、少しずつ変えていこう。
- ・ 3歳までにどんな経験をした子がそだっているか。
スキンシップ：スキンシップしましょうではない。かわいいからしてしまうもの。
かわいいと思いながら、保育ができるのがプロの仕事だが、園によって差が大きい。
赤ちゃんは、私たちが思っている以上に人間で能力も高い。授乳場で顔を見るが、自分が求めたことに応じもらえないと育たない。きわめて重要なコミュニケーターであり一方的なしゃべりかけはダメである。応答性にすることで信頼関係の形成につながる。
絵本を読んでもらった子どもたちは、自己肯定感が育つ。
乳幼児期に否定的な態度をとると、思春期以降に問題が多い。
- ・ 禁止事項が多すぎる園、させることが多い園、子どもたちにイライラしてかかわる園、安心・安全のためのルールは必要だが、先生方も辛いし子どももよく育たない。
しつけに関する事で怒る園も多い。
どうしたらよいか、厳しくしつけてもダメ。セルフコントロール（自分から身につけていく）やろうという気持ちに上手に声掛けしていく。その子がやりたくなる声掛けがしつけには重要である。

研修2『基調報告』

講師 指山 健次郎 氏（佐賀県保育会会長）



- ・ 保育士不足
平成25年度～保育士確保プラン
保育士に対する処遇改善 → キャリアアップをつくって質の向上へ
- ・ 子育て安心プラン
待機児童を解消
国としては、待機児童解消に必要な受け皿約22万人分の予算を2年間で確保。
平成30年度から5年間で女性就業率80%に対応できる約32万人分の受け皿整備。

・6つの支援パッケージ

- ① 保育の受け皿の拡大
- ② 保育の受け皿拡大を支える「保育人材確保」
- ③ 保護者への「寄り添う支援」の普及促進
- ④ 保育の受け皿拡大と車の車輪の「保育の質の確保」
- ⑤ 持続可能な保育制度の確立
- ⑥ 保育と連携した「働き方改革」

・主任保育士の役割

- ① 行事の企画・運営
- ② 保育のカリキュラム、指導計画などの作成、補助、点検
- ③ 保育士の勤務シフトの管理
- ④ 保育士への専門知識や技術の指導
- ⑤ 職員からの相談対応
- ⑥ 園長のサポート
- ⑦ 園児全体と家庭状況の把握
- ⑧ 課題のある子どもや家庭への対応
- ⑨ 保護者の相談窓口
- ⑩ 職場体験や実習生、ボランティアの受け入れ
- ⑪ 教材やおもちゃ、絵本などのセレクション

研修3報告

『主任保育士の立場としての「園内研修と保育指導」一人が人を育てる、人が人財として育つ』 北野 久美 氏（全国保育士会副会長 あげぼの愛育保育園 園長）



◦子育て支援と子育て支援

・保育士育ち支援

スキルを身に付けてほしい

発言できる場をつくりたい。

OJTの充実 →むずがる赤ちゃんがいて、若手が抱っこしているならば教えて身につけさせていく。

- ・仲間育ち支援
 - 常設チーム
 - 特設チーム
 - ちょっと先輩の経験談
 - 分からなさが分からない人へのアドバイス →共感的な傾き

- ・保護者関係支援
 - ただのお使いではない
 - 受け答えがキーポイント
 - 使える or 使えない →あらかじめの間答、ロールプレイの大切さ

- ・共育て環境支援
 - 聞く耳をもつための工夫
 - いいところ探し
 - 発散できる場の工夫

- ・園内研修・職員研修
 - 〇〇について調べてもらい、10分程度でプレゼンしてもらう。

(報告)

午前の研修では、会場全体が大豆生田先生の話に引き込まれ、話の内容流れともにすんなり入ってきた。1時間半の時間がものすごく早く感じ、もう少し時間が長くてもよかった。もっと話が聞きたかった。いろんな体験談や事例もありとても分かりやすかった。この研修会で学んだことがたくさんあり、実際に園に持ち帰りできるところからやってみようという気持ちかわいてくる内容であった。

午後の研修では、北野先生がとても明るく楽しく話を進められたので、あっという間の時間でした。園内研修に関して、時間がない中でもしていかななくてはと思っていたが、5分でも10分でもできる、そんなやり方があるのだと気付かされた。型にはまった考えではなく、柔軟な発想、考え方が必要なんだと改めて考えさせられた研修だった。

とても、有意義な時間だった。

(文責：吉野ヶ里保育園 千住 美紀)